たくしんNEWS

新北風（みーにし）号

2024年（令和６年）11月号 vol.290

拓伸会［拓南グループ］

拓南本社株式会社
拓南製鐵株式会社
拓南商事株式会社
拓南製作所株式会社
株式会社西原グリーンセンター
拓伸商事株式会社（大阪）
拓伸商事株式会社（福岡）
株式会社薩南物産
拓鐵事業協同組合

INDEX

2 TOPICS
薩南物産の安全衛生大会／古波津会長に県知事感謝状／拓伸会が沖縄事例紹介／拓南本社が電話応対コンクール初挑戦／具志堅用高氏が製鐵・商事取材／拓南商事が備蓄食料品4度目寄贈etc.

6 拓南製鐵改善活動発表大会「最優秀賞」ダイジェスト〈上〉

7 拓南商事がヒヤリハットDX推進

8 連載「拓南余話」⑱／あじまぁ掲示板

【新北風】秋から初冬頃にかけて吹く北風。冬の訪れを感じさせる。『沖縄方言辞典』（研究社）より

拓伸会会報（隔月発行）
〒900-0025
沖縄県那覇市壺川３の２の４［拓南ビル３F］
拓南本社内『たくしんNEWS』編集委員会
TEL.098-831-8228　FAX.098-832-0586

沖縄の産業まつり

リサイクル技術の進化を紹介

「研究成果発表コーナー」新設　拓伸会ブース

「これイイね！　笑顔はじける　県産品」をテーマに第48回沖縄の産業まつり（主催・沖縄の産業まつり実行委員会）が10月25日から３日間、奥武山公園とアリーナ棟で開催された。４２６の企業・団体等が出展し、期間中26万８８００人（前年比４万６２００人減）が来場した。第３会場に設けられた拓伸会のブースは、前年に一新したレイアウトをほぼ踏襲し、グループをあげて取り組むリサイクル工程、各社の製品・技術を精力的に紹介した。新機軸として、ＶＲ（バーチャルリアリティー）式工場見学、エコリーフの展示を行い、「研究成果発表コーナー」「採用情報コーナー」も新設した。

開場式は10月25日、雨天により、アリーナ棟前に変更して行われた。

大会実行委員会会長を務める沖縄県工業連合会の古波津昇会長（拓伸会会長）が開場あいさつに立ち、次のようにアピールした。

「沖縄の産業まつりは、地元の全産業を紹介する県内最大の産業イベントだ。年々進化する県産品の最新情報に接する絶好の機会である。回を重ねるうちに、秋の風物詩としても定着した。県経済は、人手不足や資材の高騰などで厳しい状況が続いているが、沖縄の産業まつりが、人と人、人と産業とをつなぐ一助となれば幸いだ」

その後、玉城デニー県知事、来賓とともにテープカットが行われた。開場式では、拓南本社の金城実利氏、屋我香菜子氏がお手伝いをした。

悪天候のため開場式はアリーナ棟前で。中央が古波津会長

拓伸会ブースでOB・OGも大集合。各社幹部とともに

まつり前日に大雨が

拓伸会のブースは、前回一新したレイアウトをほぼ踏襲した。

来場者は、西側（アリーナ棟側）に設けられた入口から入り、受付（ゲーム引換券配布）を済ますと「拓南商事エリア」に導かれる。

まず、資源リサイクルの流れを紹介するパネル展示を見学し、「こども都市鉱山発掘体験会」、インジェクション装置を使った「プラスチック・コマ作り作成体験」を楽しめる。いずれも、スタッフの指導の下、親子が一緒になってリサイクルの魅力を体感できる趣向だ。

さらに、拓南商事が共同開発したリサイクル商品の展示コーナーも、前回に引き続き設けられている。

その後、「拓南製鐵・拓南製作所等エリア」に移る。

拓南製鐵の製鋼工程・圧延工程、拓南製作所の線材製品製造工程・フォーミング商品製造工程・溶融亜鉛めっき加工工程、沖縄コーテック、ＪＩＳ協会等の各パネルや商品が展示されている。各担当スタッフが案内し、技術や商品の特徴を解説してくれる。

このエリアの新機軸は、拓南製鐵のＶＲ（バーチャルリアリティー）式工場見学、エコリーフ（鉄筋１トンを製造する際に発生するＣＯ２量の第三者認証）の展示だ。

また、拓南本社技術開発室ならびに知念響室長の研究（７８５ＭＰａ級鉄筋川鋼における硬さ変化と析出挙動）などを紹介するコーナーも新設した（知念室長と田名俊

拓伸商事大阪の山田みやびさん（中央）と金翠鈴さん（右）が初見学＝「編集後記」参照

初登場「VR式工場見学」

知念響室長の研究を展示（アリーナ棟内）

本社の屋我さん（左）と金城さんが開場式のお手伝い

《2頁へ》

TOPICS

Safe work TAKUNAN

『作業前 大きな声で 指差呼称 確認ヨシ！』

安全衛生大会開催 薩南物産

10月

＊「トピックス」欄に載る名称、人物の肩書などは、記事を史料として活用するため、原則として当日のものとします。

薩南物産の令和6年度安全衛生大会が10月5日、鹿児島市卸本町オロシティホールで開かれ、役職員など40人が参加した。古波津昇会長は訓示の中で「ゼロ災害100日達成は非常に難しいことだ。だからこそ、みんなで情報を共有し、みんなで取り組んでいくことが肝要だ」と強調した。

大会ではまず、江上晃一郎常務が開会のあいさつに立った。

「本大会は、みんなで安全の意識を高め、だれもが安全に働ける職場環境づくりに努め、再確認を共有する良い機会だ。みんなでゼロ災害100日に向け、一つになって頑張っていこう」

続いて、古波津会長が訓示を行った。

大薗職長代理のリードにより参加者全員で指差し唱和

「ゼロ災害1000日の達成ばかりにとらわれて、万が一のことが起きて隠したり、ヒヤリハット報告が出てこないことが絶対にないようにしてほしい。必ず、起きたことはしっかりと報告をして、改善・是正に取り組んでもらいたい。指差し呼称は、業務時だけでなく日常生活でも形式的にならないよう確実に行って、安全性を常に高めてほしい。また、衛生面・健康経営については、普段から疲れたら休む、感染症等や暴飲暴食にも気をつけるなど、健康に留意し、楽しく仕事ができる職場つくりを心がけてほしい。これから1年間、ゼロ災害を達成するという気持ちで過ごしていこう」

その後、安全衛生管理推進者の田邊雄二常務が、ゼロ災活動記録の報告を行い、拓南本社安全統括室の長濱直次室長による健康経営についての講話に移った。

長濱室長は、「ラジオ体操や野球大会」「自販機を健康飲料へ変更」「ストレスチェックの実施」「子育て支援」「労働時間の削減」など健康経営の取り組み事例などを紹介した。

休けいを挟み、外部講師による講話(労働災害防止対策)の後、営業統括部原料課の崎山浩志主任が大会宣言をした。

「令和6年安全衛生大会に対し、私たちは職場において『作業前 大きな声で 指差呼称 確認ヨシ！』のスローガンに乗っ取り、安全意識の徹底と職場環境を整備し、安全目標である不休災害・休業災害ゼロの確立と快適な職場環境の確立をし、自分のため、みんなのために社員一丸となって、ゼロ災害の目標達成に向かってまい進することを誓います。ご安全に」

そして、同課の大薗正太職長代理のリードにより、参加者全員で、安全スローガン『作業前 大きな声で 指差呼称 確認ヨシ！』の指差し唱和が行われた。

閉会のあいさつは、日髙勝副社長が行った。

「現在、薩南物産ではゼロ災害1000日に向けて取り組んでいるが、今日現在で330日となり、1年に向けて、もう少しだ。これからは、事故の元である不安全状態・行動を排除するために3S(整理、整頓、清掃)、定期的な機器の保守、危険予知、リスクアセスメント、指差し呼称、ヒヤリハットなどに気をつけ、みんなで安全衛生活動に努めたい。安全は、心身ともに健康であるところから始まる。まずは健康を第一に心掛けていこう。今日の安全衛生大会で学んだことを踏まえて、自分のため、家族のため、みんなのために安全最優先の職場環境を整えていこう」

司会進行は、営業統括部製品課の濵田龍也氏が務めた。

《1頁より》

徳氏は、アリーナ棟会場の展示にも参加した)。さらに、募集職場を紹介する同社人事部の「採用情報」のコーナーも新たに設けた。

同エリアから「中庭」へ進むと、落書き大歓迎の廃自動車が待ち構えている。その先は「ゲームエリア」「景品交換エリア」だ。

毎回行列ができる人気の「ゲームエリア」には、イライラ棒2台、輪投げ1台が設置され、子どもたちはもちろん、大人たちの歓声もよく響いた。

拓伸会のブースには期間中、1万7176人(前年比6875人増)が訪れた。各社から派遣されたスタッフは、延べ160人だった。

ディレクターを務めた拓南本社総合企画部企画管理課の又吉史也氏は次のように振り返った。

「初めて、産業まつりのディレクターを担当した。

台風の影響による雨天が想定されたので、テント設営、ブルーシート敷設、展示物等搬入をできる限り前倒しで行った。しかし、開会前日、大雨に見舞われ、ブルーシートが浸水し、展示の仕上げができなかった。開場式までになんとか対応できた。

拓伸会ブースのレイアウトは前回をほぼ踏襲した。しかし、『ゲームエリア』は工夫した。前回、行列ができ、混み合ってしまったので、順番待ちのスペースを十分につくり、ぬかるみ対策で砂も入れた。

初日以外は天気にも恵まれ、拓伸会の活動を県民の皆さまにアピールできたと思う。各社から派遣された担当スタッフのおかげだ。関係各位にあらためて感謝を申し上げたい」

古波津会長に県知事感謝状

沖縄県社会福祉大会

10月

古波津会長夫妻を囲んで。祝福に駆けつけた拓伸会幹部と

「手を添えて、ともに創ろう福祉の街」をスローガンに第67回沖縄県社会福祉大会(主催・沖縄県、沖縄県社会福祉協議会、沖縄県共同募金会)が10月9日、沖縄コンベンションセンター劇場棟で開かれた。

席上、県知事表彰・感謝が行われ、拓南製鐵の古波津昇会長に感謝状が授与された。

「日頃から社会福祉に深い理解を寄せ、沖縄県社会福祉協議会へ多額の浄財を寄贈、社会福祉の発展に貢献された」と古波津会長の貢献を高く評価した。

古波津会長は後日、拓伸会のLINEを通じて「2年がかりでヤングケアラーに対する支援を画策し、沖縄県社会福祉協議会とサンクス基金に寄付しました。沖縄の将来の人材を育成する一環になればと思います。皆さんからのお祝いもありがとうございました」とのメッセージを送信した。

そのメッセージを受けて、拓伸会の前名誉会長・黒島善茂氏は「社会福祉の発展に貢献され、感謝状をいただいたこと誠におめでとうございます。創業者も喜んでいることと思います。著書『起業の心得帖』に県経済の発展は、同時に県民の発展でなければならないと書きしるしています。どうぞこれからも万民のために頑張ってください。とはいえ健康第一です。くれぐれもご自愛くださいますようお祈りいたします」と祝福の一文を寄せた。

9月

拓伸会が沖縄企業の事例紹介

ヘルスケア会議開催　沖縄県大阪事務所

沖縄県大阪事務所は9月12、13日、関西地区のヘルスケア企業や大学を対象に沖縄県市町村自治会館で会議を開いた。テーマは「沖縄固有のヘルスケア課題に挑戦～あなたのビジネスで県民が健康に暮らせる未来を作る！」。沖縄県民の健康向上と沖縄の経済振興をともに推進できる仕組みをつくろうと関西地区の企業十数社、約20人が参加した。同会議の開催にあたり、県大阪事務所から拓南本社に、地元沖縄企業の事例紹介として拓伸会の取り組みを説明してほしいとの依頼があった。そこで、拓南本社安全統括室の長濱直次室長に、会議の感想を寄稿してもらった。

長濱室長に、会議の感想を寄稿してもらった。

関西地区の企業・大学にアピール

拓南本社安全統括室長　長濱直次

沖縄県大阪事務所は、大阪駅前ビル21階にオフィスを置き、西日本・東海・北陸地域で活動している県人会等の各種行事の支援等を行うとともに、沖縄県関連情報をその地区エリアに発信している。

このたび、県大阪事務所は、関西地区の企業を中心に、沖縄県民の健康向上と沖縄の経済振興の2つをともに推進できる仕組みをつくりたいとの考えのもと、ヘルスケア企業や大学を対象に沖縄県市町村自治会館で会議を行った。

長濱室長が沖縄の事例紹介を担当

席上、事例紹介として、拓伸会が健康経営に取り組んだ経緯、グループ全社が一斉に取り組んだ健康経営優良法人２０２４の認証取得とその効果、今後の課題について説明させてもらった。

また、参加者から沖縄県民の生の声も聞きたいとのリクエストがあり、拓南製鐵の西銘進常務、山田力部長、高江洲力部長、拓南本社の長澤孝之主任、田名俊徳社員が、県民性について、さまざまな質問に答えた。

そのやりとりの一部を紹介すると、「飲み会ではどのくらい飲みますか」「どのくらい飲んだか覚えていません」、「どんなお酒を飲みますか」「何でも飲みます」、「締めはステーキですか」「ラーメンです。ステーキは高くて食べられません」など。テレビで広まっている沖縄県民の印象とは違う県民性（ペルソナ、キャラクター）を生の声で伝えることができた。

会議終了後、主催者から、関西企業の方々は非常に喜んでおられたという感想をいただいた。また、一部の企業からは後日、健康関連ビジネスについてさらなるヒアリングを求められた。

今回の会議では、関西地区の企業や大学に拓伸会の活動を大いに紹介することができ、ビジネスの展開にもとても有意義であったと感想を持った。

（左から）製鐵・西銘常務、山田部長、高江洲部長、本社・田名社員、長澤主任

9月

県の「働く女性応援事業」に参加

本社「えるぼし・くるみん活性化チーム」

拓南本社の「えるぼし・くるみん活性化チーム」は今年度、沖縄県商工労働部が主催する「働く女性応援事業」に参加している。そこで、システム管理部システム管理課の安里美樹子課長に同事業について寄稿してもらった。

女性が働き続けられるために

拓南本社システム管理課課長　安里美樹子

拓南本社の女性管理職で構成している「えるぼし・くるみん活性化チーム」は今年度、沖縄県商工労働部労働政策課が主催する「働く女性応援事業」に参加しています。

同事業のひとつ、沖縄産業支援センターで9月18日に開催された「令和6年度・女性が働き続けられる職場づくり支援プログラム」に参加しました。

プログラムの内容は、先進企業の事例発表会と他社との交流会で、本社の女性管理職5人が、改善活動の取り組み方法を学ぼうと参加しました。

事例発表会では、①外部の知識を取り入れ視野を広げること②ライフスタイルの変化に応じたロールモデルを作る必要性③明確な女性のキャリアアップを推進し「働きやすい環境の構築・確立」を行うことなど、具体的な成功事例や失敗から学んだ教訓を共有させていただきました。

また、グループディスカッションでは、異業種の方々と交流して異なる視点やアプローチを知ることができ、大きな収穫でした。

今後の改善活動に対する理解も意欲も深まりました。本社「えるぼし・くるみん活性化チーム」は、さらに働きやすい環境づくりに努めてまいります。

（上）宮野利江　業務管理課課長代理
（下）金城実莉　統括課主任

10月

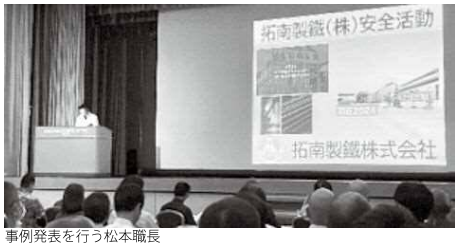
製鐵の松本職長が事例発表

沖縄県産業安全大会

令和6年沖縄県産業安全衛生大会（主催・県労働基準協会など9団体）が10月11日、ラグナガーデンホテルで開かれた。県内各企業から役員や安全衛生担当者など約390人が参加した。第1部の安全衛生表彰の後、第2部の事例発表で、「拓南製鐵の安全衛生活動について」をテーマに松本浩職長（加工センター）が事例発表を行った。

会場で発表を聞いた拓南本社ESG推進室の花城可人次長は、次のように感想を述べた。

「松本職長は『目に異物混入した不休災害の改善』『毎日の安全基本行動の唱和・玉掛け指差呼称』『高速カッター切断作業改善』について事例発表した。長年、現場の最前線で活動をしてきた松本職長の安全への強い思いが伝わってきた。また『日々の活動からさまざまな気づきがあった』『異業種との出会いからも学んだ』などのエピソードも披露され、感銘を受けた。松本職長の拓南マンとしての誇りを感じさせるすばらしい発表だった」



事例発表を行う松本職長

事例発表後、松本職長は、次のように振り返った。

「今回、拓南製鐵の会社代表として発表者の推薦をしていただいた。仕事ではなかなか味わえない良い意味での緊張感があった。今後も、模範になるような部署として安全活動を推進していき、働く仲間から災害を出さない出させない活動を行っていく。安全衛生活動を最優先し、率先してリーダーシップが発揮できるようにPDCAを回して『ゼロ災１０００日』達成に尽力する」

電話応対コンクール初挑戦

拓南本社

9月

拓南本社11人が初チャレンジ、7人が県大会へ―。第40回電話応対コンクール沖縄県大会(主催・日本電信電話ユーザ協会沖縄支部)が9月27日、ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城で開かれた。初挑戦した11人のうち7人が予選を通過し、県大会へ出場した。

同コンクールは、各企業の社員の電話応対と応対技能のレベルアップを通じて顧客満足経営の推進を図るのが目的で、毎年実施している。参加者は、毎年設定される競技問題に取り組み、電話応対サービスの技能を競い合う。審査委員長は、沖縄アナウンス塾主宰の土方浄氏(元琉球放送アナウンサー)。

「伝えて、聴いて、つむぐ信頼」を今年度のテーマに設定した県大会は、予選を通過した35人の選手で競われた。拓南本社は初出場にもかかわらず7人がエントリーされ、コンタクトセンター関連企業を除けば最も多い比率となった。

入賞者は出なかったが、日本電信電話ユーザ協会沖縄支部の田仲康将事務局長などから、「本業のコールセンター業務者が多い中で、通常業務で使う電話応対のスキル向上を一的に出場してくれた」と評価する声があった。

総合企画部統括課の島袋緑課長代理は次のように総括した。

「県大会の予選は、録音データによる審査だった。初出場にも関わらず、11人中7人が通過し県大会へ出場した。入賞ならずの結果だったが、本業の方々と肩を並べて競技することでとてもよい刺激になった。

拓南本社では参加を決めてからまず、問題にそったスクリプトを作成し、相手役の受け答えを想定しながら応対方法を考え、業務の合間をぬって練習を重ねた。

コンクールへ向けたセミナーにも参加し勉強会を行ったが、想像していた以上に電話応対は難しく、だからこそ、より学ぶべきだと痛感した。相手に寄り添う、意向に添うような相手からの聞き出し方、提案の仕方、制限時間内での対応など、コンクールへ向けた課題はいくつもあった。

本来の業務をする傍ら、7人が時間をつくり、チャレンジャー同志で練習する機会を設けたが、やはり未知の世界であり、どう対策すべきか思案してしまう場面もあった。練習時間も足りなかった。

今回の経験と反省を生かし、次回に生かしたい。来年は、拓南グループ各社からもチャレンジャーを募り、各社の電話応対力を向上させることも視野に考えている。

電話応対は、電話だけでなく、日常のコミュニケーションスキルにもつながる。グループ全体の顧客満足度を上げるよう、一歩前進することを目標に取り組んでいきたい」

拓南本社から挑戦した11人は、下記の通り(敬称略)。

上原康志・瑞慶山尚子・島袋緑・金城実莉・又吉史也・神山エリ(総合企画部)、上地美里・高江洲結(財務課)、田中彰人(雇用管理課)、花城可人(ESG推進室)、神谷愛里(システム管理課)

県大会に出場した7人のうち高江洲結氏に感想を寄稿してもらった。

ものすごい達成感に感謝

拓南本社財務課　高江洲　結

第40回電話応対コンクール沖縄県大会に出場させていただきました。

お客様に寄り添った応対、提案を目標としていましたが、正しい言葉づかいや表現方法など、基本的な部分から改善する点が多く、大変苦戦しました。ですが、その半面、学びが多く、スキルアップにつながる経験ができたと感じています。

本番では舞台の上に立って観客やマスコミの前で競技をするのだと聞き、目が近づくにつれて、何とも言えない緊張感がありました。

一緒に挑戦した本社メンバーとは、何度も集まり、練習をしました。電話応対が上手な先輩と同僚に恵まれていましたので、良いところを真似してアドバイスをし合いました。

本番では、悔しい気持ちが残る結果となりましたが、同時に、ものすごい達成感がありました。出場していない方々からもたくさんの応援の言葉をいただき、とても励みになりました。

一緒に挑戦したメンバーとは、不安な気持ちを共有しながらも、練習時間は笑いや楽しさがあり、とても心強かったです。みなさんありがとうございました。

本番のときを思い出すと緊張感がよみがえるほどですが、参加したことで知識が深まり、自信につながっています。まだまだ改善点が多いので、今後は、学んだことを意識して普段の電話業務に取り組んでまいります。

具志堅氏が製鐵・商事を取材

OTVの人気番組「ぐしけんさん」

9月

沖縄テレビの人気番組「ぐしけんさん」の取材で、元ボクシング世界王者でタレントの具志堅川高氏が拓南製鐵と拓南商事を取材した。そこで、同行して案内した拓南本社総合企画部の上原康志部長に寄稿してもらった。

世界チャンプも汗だくに

～撮影同行後記

拓南本社総合企画部長　上原康志

9月22日放送の沖縄テレビ「ぐしけんさん」で、拓南製鐵と拓南商事が取り上げられました。事前の内容チェックがなかったのでドキドキしながら放送を見たのですが、歴史や製造工程がうまくまとめられていて、とても分かりやすい内容だったと思います。(「ぐしけんさん」の公式サイトやYouTubeで配信されているので、まだご覧になっていない方はぜひ!)

具志堅氏
サイン色紙

さて、撮影は7月22日の午後に行いました。具志堅用高さんとアシスタントの浜川結琳さん、そして撮影スタッフ6人の計8人もの方々がいらっしゃいました。13時に八木実社長との対談で撮影がスタートし、14時から拓南商事、最後の拓南製鐵の製品倉庫の撮影が終了したのは16時を回ってからと3時間以上の撮影となりました。暑い中での長丁場の撮影でしたが、具志堅さんも浜川さんも汗だくになりながらも、最後まで笑顔で、楽しそうに撮影されていたのが印象的です。

驚いたことは、当日初めて来る場所にも関わらず、撮影するポイントや動きを段取り良く決めスムーズに撮影していたことです。(放送を見て、あのときあそこから撮った映像がこんな風になるのかとさらに驚きました)

末筆ながら、今回の撮影において多くの役職員の皆さまにご対応いただきました。ありがとうございました。ご対応された方から感想をいただきましたので、ご紹介します。

○**玉城孝太**氏(拓南製鐵製造部部長)

「印象に残ったのは、具志堅さんや浜川さんをはじめディレクターなどの撮影クルーも工場の規模感にびっくりされ、童心に戻ったかのようなリアクションをしていたことです。改めて特殊な工場であると感じたとともに、もっと対外的に発信していくことの重要性を感じました。元世界王者でも製鋼工場の暑さにはまいった様子で、涼しい階段の踊り場から動かなくなってました(笑)」

○**比嘉正毅**氏(拓南製鐵営業部次長)

「今回の番組撮影を通じて、拓南製鐵の仕事や県内での鉄スクラップリサイクルの取り組みを知ってもらえたと思います」

○**當山瑞樹**氏(拓南製鐵製造部課長)

「テレビ番組の対応は初めてでしたので緊張しました。拓南製鐵の魅力を十二分に伝えられたと思います。具志堅さんは撮影外でもユーモアたっぷりで魅力あふれる方でした」

Safe work TAKUNAN

2回目の研削砥石特別教育

拓南商事 9月

拓伸会では今年4回目、商事単独では2回目になる「研削といしの取り替えまたは取り替え時の試運転の業務」(自由研削砥石(グラインダー))に係る特別教育を9月10日に実施した。拓南商事は今年度、「法令に則した正しい使用方法でグラインダーによるケガを2度と発生させない」という安全担当部署の強い決意のもと、特別教育に力を入れている。今回の特別教育は、通常の業務と調整しながら協力会社の社員も含めて15人が受講した。現場業務に従事している全社員を特別教育の対象にしているため、グラインダーに初めて触れる社員もいた。

そこで、グラインダーを初めて使用した製造部家電班の當間美栄子氏に受講した感想を寄稿してもらった。

安全作業の大切さを再確認

製造部家電班　當間美栄子

学科では、グラインダーやといしの種類や構造、また取り扱い方法について詳しく学びました。適合確認や試運転の方法も教わり、初めて知ることが多く、非常に勉強になりました。

特に、災害事例を聞いた際には「こんなことが起きるのか…」と少し怖く感じましたが、その一方で、学んだ知識を生かして安全に作業することの大切さを再確認できました。

実技では、研削といしの最高使用周速度やグラインダーの回転数の確認を行った後、試運転を行いました。

私は左利きのため、右利き用の道具を扱うことに不安がありましたが、教わった通りに刃先を当てる場所などを確認しながら行うと、左利きの私でもスムーズに扱えるようになり、ほっとしました。また、右手でも違和感なく操作できたことに、自分でも驚きました。

これまでグラインダーを使用した経験がなかったのですが、今回の特別教育を受けたことで、今後、もし使用する機会があれば、教わった内容を思い出しながら安全に取り組んでいきたいと思います。

また、会社から配布されたテキストも活用しながら、常に確認しつつ安全作業に臨むつもりです。お昼休み後のストレッチ体操も楽しく参加させていただきました。この度はありがとうございました。

備蓄食料品4度目の寄贈

うるま市社福協へ　拓南商事 9月

拓南商事は9月24日、地元のうるま市社会福祉協議会へ備蓄食料品(非常食)を贈呈した。福本将希常務、備蓄食料品管理担当の石川正人主任(安全衛生委員)が出向いた。

このフードドライブ運動は、同社のBCP(事業継続計画)活動の一環で、賞味期限が切れる前に備蓄食料品を提供し、市内の子ども食堂、貧困世帯などに役立ててもらおうというもの。今回で4回目の寄贈になる。

石川主任は次のようにコメントした。

「今回は、賞味期限2か月以上残った沖縄ホーメル製タコライス缶(70グラム)221個を寄贈しました。先日、ボランティアセンターの担当者から連絡があり、寄贈した食料は『なかきす児童センター』『きゃん児童館』へ提供したとのことです」

(上)なかきす児童センターの子どもたち
(下)きゃん児童館の子どもたち

(左から)石川主任、福本常務、うるま市社福協の名護政輝会長、浜端淳一事務局長

2024 健康経営優良法人 Health and productivity

食欲の秋、ビーチパーティー堪能

本社&西原GC　拓南製作所 9月

食欲の秋ー。拓伸会会員企業から「ビーチパーティーを楽しんだ」という一報が。拓南製作所は9月7日、拓南本社と西原グリーンセンターは同月21日にビーチパーティーをそれぞれ行った。そこで、拓南製作所の知念直成課長、拓南本社の仲松庸一郎専務(健康経営推進委員会委員長)に寄稿してもらった。

大人も子どもも盛り上がる

拓南製作所業務課課長　知念直成

拓南製作所は9月7日に、中城モール1階カフェ・マーメイドBBQテラスでビーチパーティーを開催しました。

社員の家族含め、総勢約70人で和気あいあいと親睦を深め、楽しい時間を過ごしました。

初開催のビンゴゲームでは、豪華景品を目指して大人も子どもも大いに盛り上がりました。

次回は、もっと多くの方が参加できるようなビーチパーティーにしていきたいと思います。

心地よい風の中で親睦

拓南本社専務　仲松庸一郎

拓南本社と西原GCの合同ビーチパーティーを9月21日に、西原キラキラビーチにて行いました。

台風の影響が心配された中、幹事さんをはじめ、両社の皆さんの日頃の行いが良かったためか、ビーチパーティー日和になりました。

心地良い風が吹く中、本社家族・西原GC(業務の都合にて5人の参加)総勢57人が参加し、親睦を深めた楽しい1日を過ごしました。

関係者の皆さんご苦労様でした。

★最優秀賞　スタッフチームの部　環境室

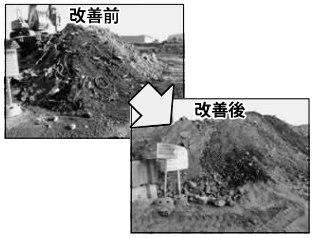
第18回 拓南製鐵改善活動発表大会／令和6年2月20日開催・小紙3月号参照
『最優秀賞』ダイジェスト〈上〉

レンガ屑　利用模索

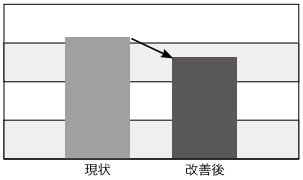
過去の活動を振り返る

2016年度活動成果

2016年度の改善活動
異物混入・県外管理型処分⇒分別・磁選
⇒発生量減、県外安定型処分(単価を下げ)



**約560万円/年の
コスト削減を達成！**

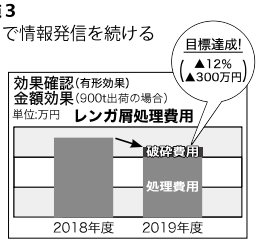


2018年度活動成果

対策実施3
出会うまで情報発信を続ける

相手	業種	提案月	結果	回答内容
RS社	県内セメント製造	4月	×	レンガ屑受入れ不可
KK社	高炉メーカー子会社	4月	×	県外管理型埋立を提案された
SS公社	県内産業支援	5月	×	回答無し
O高専	高等専門学校	6月	×	回答無し
環境開発公社＆沖縄クリーン工業	・県外産廃処理企業 ・県内産廃処理企業	7月	○	県内リサイクルに向け、一緒に取組みましょう！

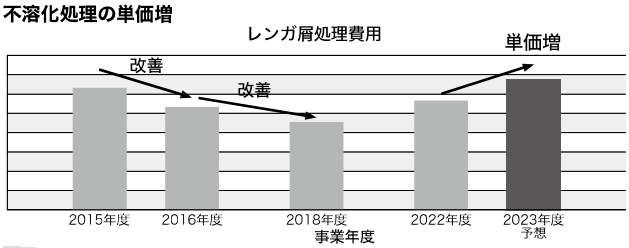
パートナーに出会う!



2023年度再活動(今回の改善活動)

1 レンガ屑活動再開の動機

不溶化処理の単価増



2 調査

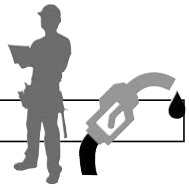
(1)不溶化に関する情報収集

▶コスト算出

設備費：6,000万円
※廃棄物処理用の耐用年数8年
※750万円/年

固化材：￥90,000/t(混合量は約5%)
【レンガ1,200t/年 発生とすると、固化材使用は約60tになる】
※540万円/年

人件費：【2名】**800万円/年**(時給2,000円)
燃料費：【軽油】**300万円/年**(単価150円/L)
消耗品：**100万円/年**(適当な予測)



合計2,490万円/年

※想定以上の経費になる事が分かった。

(2)溶出試験および含有量試験

▶レンガ屑・還元スラグ混合

溶出試験								
混合率	試験項目(括弧内は基準値)単位mg/L							
	カドミウム(0.003)	鉛(0.01)	六価クロム(0.05)	ヒ素(0.01)	水銀(0.0005)	セレン(0.01)	フッ素(0.8)	ホウ素(1)
2：1	<0.0001	<0.001	<0.005	<0.001	<0.0005	<0.001	<0.08	0.62
3：1	<0.0001	<0.001	<0.005	<0.001	<0.0005	<0.001	<0.08	0.59

含有量試験								
混合率	試験項目(括弧内は基準値)単位mg/kg							
	カドミウム(45)	鉛(150)	六価クロム(250)	ヒ素(150)	水銀(15)	セレン(150)	フッ素(4000)	ホウ素(4000)
2：1	4.1	75.4	<10	<10	<1	<10	167	211
3：1	3.5	94.3	<10	<10	<1	<10	170	179

還元スラグと混合する事により、**環境基準はクリア**する。

(3)同業他社リサーチ

質問項目(質問の意図)	拓南製鐵	A社	B社	C社
1)発生原単位(下げたい)	**6～7kg/t-鋳片**	83kg/t-鋳片	**4～5kg/t-鋳片**	**3kg/t-鋳片**
2)社内処理可否(社外に出したくない)	**未実施**	未実施	未実施	**破砕・溶融にてスラグ化**
3)社外処理費(少しでも安くしたい)	**¥30,000/t-レンガ**	¥30,000/t-レンガ	¥20,000/t-レンガ	**¥10,000/t-レンガ**
4)社外処理方法(再利用したい)	**不溶化処理(社内不溶化検討中)**	管理型埋立		路盤材化(90%社内処理)

《右段へ》

《左段より》

3 打ち手模索結果

区分	項目	結果	
社外処理	①県内で他に不溶化処理が出来る業者を探す	県内では**現状のパートナー以外に不溶化できる企業はいなかった**。	×
	②他の処理方法	**減容化**の情報を得たが、**電源確保や排ガス処理など課題は多く**、会社の方向性として無しと判断する。	×
社内処理	③自社で不溶化処理を行う	**固化材選定や不溶化実験などノウハウがない**。実験するには、500万円でレンタルする、もしくは依頼する。**想定以上にコストが掛かる事も分かった**。	△
	④スラグと混合する事でリサイクル品とする	還元スラグと混合する事で環境基準をクリアしたが、**還元スラグの在庫にあまり余裕がない**事と、**ゆいくる認定に時間を要する**。	△
	⑤同業他社リサーチ	**電気炉での有効利用を前向きに進めていきたい。**	○

4 活動

(1)電気炉での利用計画

▶スケジュール

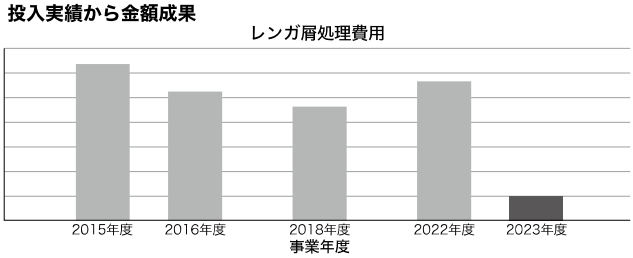
工程	7月			8月			9月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
⓪粉砕レンガ出荷		→							
①レンガ解体	随時								
②置き場移動	随時								
③レンガ破砕	→								
④合金ホッパーへ移動	※空きホッパーをつくる			→					
⑤電気炉投入					→	→	→	→	
⑥検証					→	→	→	→	
⑦報告									→

(2)検証結果まとめ

区分	項目	結果
生産	電力使用量	初装：約500kW減少 追装：約800kW**増加**
	C-ing使用量	初装：約100kg減少 追装：約50kg減少
	溶け残り	初装：問題なし 追装：**若干、溶け残りありか**
品質	鉄鋼製品	化学成分：特に変化なし 製品外観疵：特に変化なし
	スラグ	溶出試験：問題なし 含有量試験：**CaO、塩基度が低くなる**

5 成果

投入実績から金額成果



※2023年度は、7月に1回 社外で処理する。

※〈下〉は次号掲載予定

Safe work TAKUNAN

拓南商事がヒヤリハットDX推進

拓伸会安全衛生管理者等連絡会議

労働災害の分野でよく知られている「ハインリッヒの法則」（アメリカのハーバート・ウイリアム・ハインリッヒが１９３１年に法則化）によりますと、１つの重大事故の背景には、およそ29の軽微な事故があり、さらにその背景に３００のヒヤリハットが存在しています。つまり、ヒヤリハット対策を進めることは、労働災害防止に相当な効果が期待できます。

拓伸会安全衛生管理者等連絡会議（事務局・本社安全統括室）では、各社から毎月、災害発生状況およびヒヤリハット件数等の報告を受けていますが、拓南商事の報告件数および内容で著しい進展が見られました。

その要因を、拓南商事にヒアリングしたところ、企画開発室（名波和幸室長代理）が「ヒヤリハットを従来の通りの報告様式では十分に吸い上げられていない」との仮説を立てて、実証実験を行っていました。スマホアプリとＲＰＡを活用してＺ世代の社員でも気軽に報告ができ、報告に対して迅速に対応できる社内システムを構築することによって、ヒヤリハットの報告件数を実施前後で比較しました。

桃原絵理花氏に、その結果（一部）を寄稿してもらいました。また、拓南本社の長濱直次安全統括室長にもコメントを寄せてもらいました。

スマホアプリとＲＰＡを活用
ヒヤリハット報告作成の簡素化・迅速化

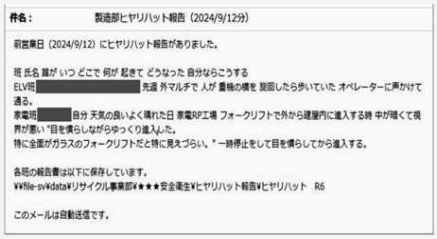
拓南商事企画開発室　桃原絵理花

拓南商事では「Ｇｏｏｇｌｅ　Ｆｏｒｍｓ」というＧｏｏｇｌｅのアンケート機能（図①）と、「アシロボＲＰＡ」という単純なＰＣ作業を自動化するソフトウエアを組み合わせ、社員がスマホから送信したヒヤリハット報告を翌朝に集計し、関連部署のスタッフへ内容をメールで共有するとともに（図②）、報告書一覧（Ｅｘｃｅｌデータ）（図③）の作成を自動で行うシステムを構築しました。

これまでのヒヤリハット報告は、現場で発生したヒヤリハットを各人が紙に記入して提出し、担当職員の手を使ってＥｘｃｅｌデータへまとめる流れでした。この方法だと、提出から入力までに時間を要したり、内容を安全担当部署から関連部署のスタッフへ展開するのが翌月だったりと、結果的にヒヤリハットへの安全対応・安全対策が大幅に遅れる状況となっていました。

企画開発室は、この状況を改善するため、アシロボＲＰＡを使用することを決定し、ヒヤリハット報告作成の簡素化・迅速化、情報共有の自動化・迅速化を実行しました。

図①　Google Formsの報告画面


件名：　製造部ヒヤリハット報告（2024/9/12分）

前営業日（2024/9/12）にヒヤリハット報告がありました。

班 氏名 誰が いつ どこで 何が 起きて どうなった 自分ならこうする
ELV班 [redacted] 先週 外マルチで 人が 重機の横を 脱臭したら歩いていた オペレーターに声かけて通る。
家電班 [redacted] 自分 天気の良いよく晴れた日 家電RP工場 フォークリフトで外から建屋内に進入する時 中が暗くて視界が悪い *目を慣らしながらゆっくり進入した。
特に全面がガラスのフォークリフトだと特に見えづらい。* 一時停止をして目を慣らしてから進入する。

各班の報告書は以下に保存しています。
¥¥file-sv¥data¥リサイクル事業部¥★★★安全衛生¥ヒヤリハット報告¥ヒヤリハット　R6

このメールは自動送信です。

図②　関連部署のスタッフへ内容をメールで共有

図③　報告書一覧（Excelデータ）

製造部は30件から70件へ増加

まず、全社実施に先行して同システムを取り入れた製造部の状況を説明します。

製造部では、システム実施後に、ひと月の報告件数が約30件から約70件へ大幅に増加する効果が現れました。特に家電班では、報告されたヒヤリハットの内容を現場に貼り出して、班内で安全対策の内容等も共有しています（図④）。

家電班の野原朝実班長に感想をうかがうと、「内容がフィードバックされることで、緊急性が高いものやすぐ対応できるものから早急に対策を行えるようになった。紙を用意する手間が省け、どこからでも報告ができるため便利になった」とおっしゃっていました。

図④　家電班に貼り出している報告書（左）と報告用QRコード（右）

防止対策の可視化も重要に

気軽に報告ができることや、報告に対して迅速に対応できることにより、社内でのヒヤリハット情報による事故災害防止対策の可視化の重要性が高まっているのではないかと感じています。

まだ、報告をしたことのない拓南商事の社員は、ぜひ報告してみてください。

今後も、企画開発室では、デジタルツールを活用した業務改善（ＤＸ）に取り組んでまいります。

Ｚ世代の報告件数も増加

拓南本社安全統括室室長　長濱直次

ヒヤリハット活動では、詳細かつ多数の報告件数を集めることを主眼としているわけではありません。詳細でなくてもスピード感が肝要です。内容が概要であっても、また少数であっても速く報告することで、労働災害の原因となる芽が小さなうちに対策を講じ、大きな労働災害の防止につなげることを目的としています。

拓南商事のヒヤリハットに係るＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）はこのポイントを押さえ、なおかつ、Ｚ世代と称される若い社員からの報告件数増の成果も得ました。すばらしい着想と実行力です。賞賛します。

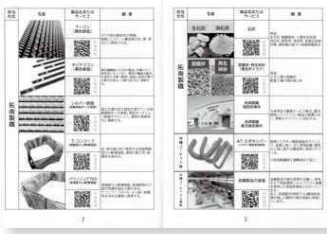
拓南グループ製品・サービス一覧 10月

社員向け携帯用冊子を配布　拓伸会

拓伸会は、拓南グループ各社の「製品およびサービス概要」をまとめた冊子（A5判・8頁）を作成し、10月21日に全社員へ配布した。

外部向けではなく、各社社員向けの携帯用冊子で、拓南商事、拓南製鐵、拓南製作所、拓伸商事、薩南物産、西原グリーンセンターの製品またはサービスの概要がすぐに分かる。

また、記載のQRコードをスマートフォンなどで読み込むと、関連のパンフレットやHP情報が見られる。



酸素プラント導入記（7）

道づれは琉球人形

黒島　善茂

拓南余話⑱

翌朝、就寝するベンチと寝袋を提供してくれた軍曹らしき人物にお礼を述べ、ダウンタウンへ向った。その足で、連絡事務所へ、昨夜着いたことを報告しに立ち寄ることにした。

所在地にほど近いと思われるバス停で降り、通りすがりの方にメモを見せ、教えを乞うた。

その方は親切に道順を教えてくれたのだが、アメリカの道標は大雑把で○○ストリートのみ。日本のように○○区△△丁目のような細やかではない。

加えて、私の語学力のなさがトラブルを引き起こし、1時間余もさまよい歩き、ようやく目的のビルを探すことができた。事務所はそのビルの2階にあり、ドアを開けて入ると、即座に女性がやって来た。

顔の表情から、どうもご機嫌斜めだなと感じた。その理由は、昨夜のうちに来なかったこと、それゆえ10時まで待たせてしまったことなどであった。

私が理解できたのはこれくらいのことで、あとは早口でしゃべる彼女を見て「馬耳東風」の体で突っ立っていた。しゃべっている彼女も、この者はあまり分かっていないなと悟ったようだ。

次第に話し方が穏やかになり、むしろ、これから先のことが心配になってきたのだろう。

「この後、どのようなスケジュールになっているの？」と聞いてきた。

「所用があるので2泊したい。ホテルを紹介してほしい」

そう答えると、少し待つようにいい、自分の席へ行って何やら話していたが、「OK、ここから15分の所にあるホテルを予約した。何か困ったら、いつでも来なさい」と言って、案内図を渡してくれた。

アメリカでの最初の仕事は、創業者からのミッションだった。それはカイザースチール営業所（伸鉄材を購入していた）へ琉球人形を贈呈することだ。

その際「本社工場は遠いからサクラメントの営業所へ届けてくれ」と言われた。

カイザースチール営業所　現在はカリフォルニアスチール
※1984年JFEとCVRD（ブラジル）折半出資

明日そこを訪ねるために、フロントで、所在地までの道のりを聞いて唖然とした。なんと約100マイル（160キロ）あるという。いましがた迷子になったばかりだ。果たしてたどり着き、目的を成し遂げて帰ってこれるやら、しばらく茫然自失の状態に陥った。

（拓伸会　前名誉会長）

編集後記

沖縄の産業まつりに、拓伸大阪の山田みやびさんと金翠鈴さんが初参加してくれました。お二人とも、拓伸会ブースを見学して目が輝いていました。「いままでは、字面でしか知らなかったので、業務がしやすくなります」と口をそろえていました。社員同志、グループ各社同志、県内県外同志、拓伸会ブースから同志の輪が広がっていくようでした。（鈴木）